

1 から学ぶ中学受験算数 ～第24回倍数変化算（倍数算の応用）～  
 氏名： **解答・解説**

例1 AさんとBさんの持っているカードの枚数の比は3:4でしたが、Aさんが3枚なくしたので、2人の持っているカードの枚数の比は2:3になりました。2人がはじめに持っていたカードの枚数をそれぞれ求めなさい。

★ Bさんの枚数が変わらない！

★ 比が変わる問題  
 ⇒ 「変わらないもの」の比を  
 最小公倍数にそろえる!!

-3枚 ↘	A <sup>x3</sup>	:	B <sup>x3</sup>	Aさんがはじめに持っていたカードは
	3 (9)		4 (12)	3枚 × 9 = <u>27枚</u>
	2 (8)		3 (12)	Bさんがはじめに持っていたカードは
				3枚 × 12 = <u>36枚</u>

① = 3枚

例2 AさんとBさんの持っている切手の枚数の比は3:2でしたが、AさんがBさんに14枚あげたので、2人の持っている切手の枚数の比は1:3になりました。2人がはじめに持っていた切手の枚数をそれぞれ求めなさい。

★ AとBの枚数の和が変わらない！

-14枚 ↘	A <sup>x4</sup>	:	B <sup>x4</sup>	和 <sup>x4</sup>	Aさんがはじめに持っていた切手は
	3 (12)		2 (8)	5 (20)	2枚 × 12 = <u>24枚</u>
	1 (5)		3 (15)	4 (20)	Bさんがはじめに持っていた切手は
					2枚 × 8 = <u>16枚</u>

⑦ = 14枚 なのて  
 ① = 2枚

例3 AさんとBさんの持っているあめの個数の比は8:5でしたが、2人とも13個ずつ食べたので、2人の持っているあめの個数の比は9:4になりました。2人がはじめに持っていたあめの個数をそれぞれ求めなさい。

★ AとBの個数の差が変わらない！

-13個 ↘	A <sup>x5</sup>	-	B <sup>x5</sup>	差 <sup>x5</sup>
	8 (40)		5 (25)	3 (15)
	9 (27)		4 (20)	5 (15)

⑬ = 13個 なのて  
 ① = 1個

Aさんがはじめに持っていたあめは、1個 × 40 = 40個、  
 Bさんがはじめに持っていたあめは、1個 × 25 = 25個、